

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

会計名	決算書(P)
水道事業会計	—

部局名	都市整備部
課名	水道課

I : 事業概要

施策事業名	水道事業会計
事業目的	安心・安全な水道水を安定供給する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○配水管等改良事業 370,715千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸山天白町地区 配水管布設替工事 L= 約750m ・犬山北別祖地区 送配水管布設替工事 L=約1,340m ・富岡南洞地区 配水管布設替工事 L=約1,000m ・塔野地南ノ切地区 配水管布設替工事 L= 約380m ・ナビタウン地区 配水管布設替工事 L= 約570m ・楽田勝部前地区 導水管布設替工事 L= 約300m ・犬山南笠屋地区(下水関連)配水管布設替工事 L= 約620m <p>ほか市内各所にて布設替工事及び布設工事6.3kmを実施。</p> <p>○浄配水施設更新改良事業 43,657千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1加圧所(塔野地内)非常用発電機設置工事 ・第2加圧所(善師野内)非常用発電機設置工事 <p>ほか各浄配水施設において更新・改良工事を実施。</p>
事業の成果・効果	<p>配水管等改良事業においては、丸山天白町、富岡南洞地区を始めとした市内各所における配水管布設替及び布設工事を行ったほか、犬山北別祖地区等において送配水管改良工事を実施した。</p> <p>令和元年度の配水管等の改良延長は、約6.3km実施した。</p> <p>布設にあたっては、耐震性を有する管材を使用し、耐震化を図った。</p> <p>また浄配水施設については、非常用発電設備設置工事(第1加圧所、第2加圧所)等を行った。</p> <p>これら県水バックアップ機能や電力バックアップ機能の充実により、災害対応のさらなる強化を図った。</p>

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

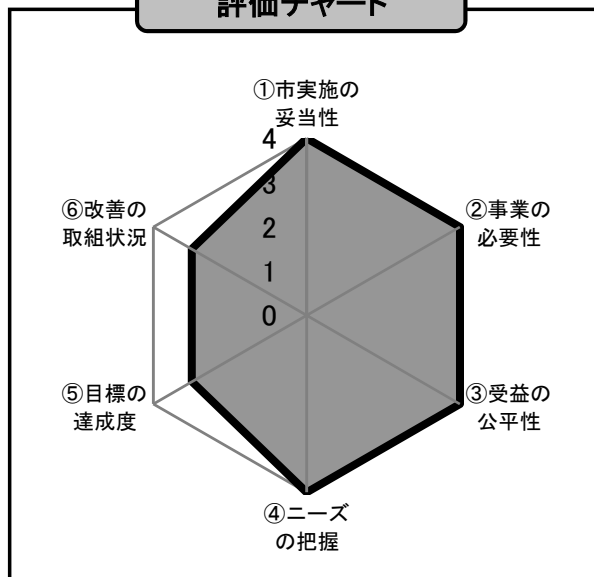
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
配水管等改良事業	370,715	370,715	0	0%	3	4	3
浄配水施設更新改良事業	43,657	43,657	0	0%	2	2	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	414,372	414,372	0	0%	2	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		361,086	414,372	443,508
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	361,086	414,372	443,508
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	水道法第6条により市で実施。
②事業の必要性	4	市民の生活に欠かせない水を供給する事業であり、継続実施が必須の事業である。
③受益の公平性	4	ほぼすべての市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	4	市民が生活を営む上で必ず必要で、ニーズはある。
⑤目標の達成度	3	配水管等の改良延長については、目標値の7.5kmに対し、約6.3kmの実績となった。有収率については、前年実績を0.1%上回った。
⑥改善の取組状況	3	給水申込に関し手続フローを作成・提示することとした。施設の減価償却率等の他団体比較を行い、配水管等について全国及び類似団体平均を上回る更新を実施した。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	漏水調査による修繕を、配水管等改良事業(布設替)への投資とあわせて行い、効率的な投資と保有資産の有効活用に努めた。自己水系へのバックアップ機能の強化を図るため、白山水系と県水系の連絡管を増設した。また、浄配水施設が著しく長時間停電した場合への対応を強化するため、非常用発電設備を県水系加圧所2か所に設置した。
令和2年度に見直しを実施している事項	引き続き漏水調査による修繕を行い保有資産の有効活用に努めるほか、鉄道軌道下をはじめとする重要箇所での布設替工事を進め、配水管網の健全性を維持して水道水の安定供給に努める。また元年度着手の非常用発電設備設置の繰越工事をはじめ順次設置工事を進め、大規模停電時の対応を強化する。
今後見直しを検討する事項	自己水系を安定的に使用を続けるため、各自己水系施設への県水バックアップ機能を強化し、各施設の修繕による長寿命化を容易にしていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
節水や人口減少の傾向により、家事用の給水収益が減少していくことが見込まれる一方で、常に安定した給水が行えるようにするためには、管路及び浄配水施設の更新、維持管理を継続して行う必要がある。	今後、家事用料金の減少傾向が続くことが見込まれるが、業務用の収入確保に努め、収支見通しの作成と定期的な見直しのもとで、給水収益と支出のバランスを考えた事業運営を行い、市民に安全安心な水道水を安定的に供給していく。